「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS
https://www.jrc.or.jp
令和4年12月1日(毎月1日発行)　赤十字新聞　第991号　昭和24年9月30日 第三種郵便物認可
December 2022　NO.991
12

わたしも赤十字　赤十字ボランティア　奥野令子(おくのれいこ)さん【P.4でご紹介】

特集

NHK 海外たすけあい 12.1(Thu)~25(Sun)

誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。

赤十字の最新情報をSNSでチェック!

人間を救うのは、人間だ。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字新聞　編集・発行／日本赤十字社 広報室　〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3　TEL：03-3438-1311　一部20円　赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

令和4年12月1日（毎月1日発行） 第991号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。

© Amanuel Sileshi/IFRC

NHK 海外たすけあい
12.1（Thu）~25（Sun）

報道されない、数十年で最も深刻なアフリカの食料危機

2022 年は、ウクライナにおける武力紛争によって当事国の人道危機だけでなく、世界中の社会経済に多くの影響を与えた１年となりました。武力紛争もコロナ禍もいまだ収束にはいたらず、暗い影を落とし続けています。大きく報道されるニュースに関心が集まる一方で、人知れず深刻さを増している人道危機があります。日本から遠く離れたアフリカで起きている食料危機。干ばつなどの気候変動や感染症流行の影響で悪化する社会経済に加え、国際社会の混乱によって食料供給が不安定になり、アフリカに追い打ちをかけました。激しい戦闘行為や、多くの避難民発生などの緊急事態は連日報道されても、アフリカで多くの人々が飢えに苦しみ、深刻な事態に陥っているという報道の数は多くありません。そのため、この危機に関心を向ける人の数も少ないのです。

ウクライナにおける武力紛争とアフリカの食料危機。一見関係のないもののように見えて、２つの問題は互いに影響しあっています。そして国や民族に違いはあっても、人々の苦しみに違いはありません。関心の差が支援の差になってはいけない。“人道・公平”という原則の通りに、赤十字は最も支援を必要とする人々のために、世界の隅々で活動を続けます。

世界の出来事はつながっています！
関心の差が支援の差になってはいけない

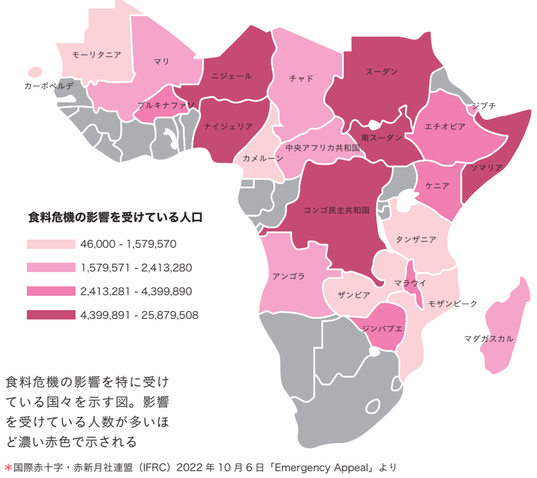
ウクライナ人道危機
報道で多く取り上げられ世間の関心も高いため、救援金が集まっています

© Annalisa Ausilio/Italian Red Cross

アフリカの食料危機
気候変動や感染症流行の影響で社会経済は悪化…食料供給も不安定な中、日本の人々の関心はあまり寄せられていません

© ソマリア赤新月社

アフリカ食料危機の現状



食料危機の影響を特に受けている国々を示す図。影響を受けている人数が多いほど濃い赤色で示される

＊国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）2022 年 10 月 6 日「Emergency Appeal」より

アフリカでいま、何が起きている!? 多くの子どもが犠牲に…

アフリカでは日本の全人口を超える１億4600万人が深刻な食料不足に陥り、緊急の人道支援を必要としています＊。この問題に対する世界の関心を高め、人道支援を強化するため、国際赤十字は今年９月に支援国赤十字社の代表らをアフリカ各地へ派遣、視察結果を基にケニアで支援戦略会議を開催しました。

ナイジェリアを視察した日赤本社国際部長の田中康夫さんは「気候変動による干ばつの影響を最も受けているソコト州は、３月～５月の調査では人口590万人のうち100万人が食料危機・緊急事態下にあり、その数は次の３カ月間で127万人（国内避難民２万7000人を含む）に増加しています。2021年の同データが83万人であったことを考えると、状況がさらに悪化しています。ナイジェリアでは１年で36万人の子どもたちが栄養失調に関連する病気で命を落とし、食料危機の最大の犠牲者になっています」と話します。支援戦略会議では、アフリカの食料危機に対する緊急及び長期的対応を赤十字の優先課題としてあらためて位置づけることを確認。また、地域に根差したネットワークを持ち、苦しんでいる人々に支援を直接届けることができる赤十字の強みを生かし、国連機関などとの間でより強固な連携を図っていくことも合意しました。

第991号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可） 令和4年12月1日（毎月1日発行）

日赤のアフリカ地域での主な取り組み

日赤がこれまでに行ってきた、生計支援や栄養状態の改善を目指す活動について事業の一例を紹介します

ルワンダ
Republic of Rwanda

家庭菜園で育てた野菜を栄養改善に役立てる

ルワンダは1990年代の内戦が終結して以降、急速な経済発展を遂げ「アフリカの奇跡」と呼ばれていますが、それは首都キガリなど一部のこと。人口の８割が暮らす農村部では、都市部との大きな経済格差が生じ、過半数の人々が貧困に苦しんでいます。日赤は2019 年から、ルワンダ赤十字社と連携し、特に貧しい５つの村で５カ年計画のモデルビレッジ事業を進めています。これは住民が主体となって村の課題に取り組み、「レジリエンス＝自ら立ち上がる力」を高めるもの。家庭菜園用として緑黄色野菜などの種を配布し、バランスの取れた食事で健康を促進する啓発活動を行ったり、牛・豚・ヤギなどの家畜、家畜を育てるための飼料などを提供し、地域住民が自立するための生計支援を行っています。

© ルワンダ赤十字社

村の女性のひとり、グテカさんは、自宅に作った菜園でとれた野菜を使って、バランスの取れた食事を家族のために作れるようになりました

ガンビア
Republic of The Gambia

© 国際赤十字・赤新月社連盟

農作物の加工法を学ぶ村の女性たち

村の女性たちによる気候変動に適応した農業の実施

ガンビアは農村部の約８割の人々が農業に従事している西アフリカの小国ですが、近年は気候変動の影響で、干ばつ、豪雨、害虫が頻（ひん）発し、農作物の収穫量がここ数年で半減しています。高い貧困率や人口の急増と相まって、国民の栄養不足が深刻な問題となる中、日赤は 2021 年に、地域の農業を担う村の女性たちを対象として野菜の生産量と所得の向上を目指すガンビア赤十字社の共同菜園作りを支援しました。野生動物から野菜を守るための鉄格子のフェンスを設置したほか、太陽光パネルを用いたポンプ式の貯水槽などを導入して、共同菜園はもちろん、炊事や飲料水にも安定的に安全な飲み水を供給できるようにしました。また、村の女性たちに対して、農具の使い方や堆肥づくり、農作物の加工方法などの知識と技術を教える研修を実施し、気候変動に適応した農業を行うことで、収入の向上と村人たちの栄養状態の改善にも貢献しました。

マラウイ
Republic of Malawi

子どもたちの栄養を補う給食の提供

マラウイは HIV（※1）感染率が世界で９番目に高く（※2）、エイズにより親を亡くした孤児は100万人に及び、５世帯のうち１世帯に孤児がいるといわれています。マラウイ赤十字社は子どもたちの健やかな成長と健康を守るために保育所の運営を行っており、日赤は2012年から支援しています。マラウイ赤十字社は、０歳から６歳までの乳幼児1400人以上が通う５カ所の保育所に、給食のおかゆ用のトウモロコシと大豆の粉、そして調理器具や食器のほか、保育所が菜園を設置し、給食に必要な食材を自給自足できるように種や肥料も提供しています。また、収穫したトウモロコシと大豆を製粉する方法を保育士たちに教えるための研修も行っています。子どもたちの家庭の多くは、経済的に貧しく食べ物が不足しているため、保育所に通う子どもたちにとって給食は不可欠な栄養源であり、また楽しみでもあります。新型コロナウイルス感染症の影響によりマラウイ全土で学校が封鎖された際には、子どもたちがきちんと栄養を取れるよう、保育所から各家庭に給食を配達しました。

© Ichigo Sugawara

給食のおかゆを食べるマラウイの子どもたち

※1 ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus）、※2 2020 年：USAID

NHK 海外たすけあいへのご寄付は、世界各地の、さまざまな危機の支援に役立てられます

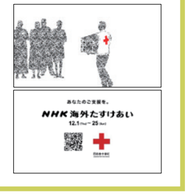
日本赤十字社と NHK が例年 12 月に実施している募金キャンペーンが今年 40 回目を迎えます。「**誰も取り残さない。紛争からも飢餓からも。**」をテーマに、気候変動、感染症、食料危機などさまざまな人道危機の影響でますます困難を極める、脆弱（ぜいじゃく）な環境下で暮らす人々を救うため、地域に根差した支援を届け続けます。

クレジットカードやPay-easyで寄付できます。
日赤 海外たすけあい
https://www.jrc.or.jp/lp/kaigai/
特設サイトへ

アニメーション CM 公開中

今年の NHK 海外たすけあいキャンペーンの動画は二次元コードに着想を得たアニメーション CM。**ヨーロッパの紛争の陰で、注目が集まりにくい人道危機にも赤十字が支援を届けている**というストーリー。主にスマートテレビ（インターネットに接続されたテレビ）の YouTube 広告で配信し、画面の中心に表示され続ける二次元コードをスマートフォンで読み取ると、キャンペーン特設サイトにつながります。また、YouTube 日赤公式チャンネルでもご覧いただけます。

動画はコチラ↑



令和4年12月1日（毎月1日発行） 第991号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

TOPICS

献血予約も問診回答も、スマホから。新アプリ「ラブラッド」を活用しましょう！

簡単&便利！ 献血カードのスマホアプリ

ラブラッドアプリでできるうれしいサービス

献血予約

Webサイトおよびアプリから、予約が可能になりました。お近くの献血会場を選択して予約したら、指定の日時に会場へ行けばOK。当日３時間前＊までの予約もできます。

事前問診回答

献血会場でしかできなかった問診回答が、Webサイトおよびアプリから事前にできるようになりました。これにより受付もスムーズになり、待ち時間が短縮されます。

＊献血会場によっては当日予約できない場合があります。

血液検査の確認

ラブラッドにアクセスすることで、ご自身の献血記録をいつでも確認することが可能です。日々の健康管理にお役立てください。

会員特典

ご協力いただいた献血種類に応じて、オリジナル記念品と交換できる献血ポイントがたまるほか、献血予約でもポイントが付与されます。その他、最新情報のご案内もあります。

検査結果の成分値をグラフで見やすく表示！

日々の健康管理にお役立てください

最新３回分をグラフで表示。基準値との比較ができ、基準値外は赤く明示するなど、検査結果が分かりやすくて大好評！

献血者のためのWeb会員サービス「ラブラッド」のスマホアプリ版が登場！ Webサイトとアプリのどちらからでも、献血の予約や献血当日の問診回答などが可能になりました。

会員登録方法は、アプリを起動して新規登録の手順に沿って情報を入力するだけ。アプリから会員になれば、これまでラブラッド会員でなかった方や初めて献血する方も、献血の予約と問診への事前回答を行うことができます。また、これまでWebサイトでラブラッド利用中の方は新規登録不要で、アプリ版をダウンロードしてすぐに使えます。

さらに、このアプリならではのうれしい機能が。Webサイトでは毎回ログインしていた手間がアプリでは不要になりました。献血カード機能も搭載しており、スマホ画面提示でOK。プッシュ通知で予約日や献血可能日が届くのも便利です。献血会場の検索も簡単で、従来の検索機能のほか、アプリでは位置情報による献血会場の検索も可能（献血ルームのみ）。また、献血ルームの写真やアクセス方法も載っているため、初めての献血会場でも安心です。

アプリからのスムーズな予約で、献血会場の混雑回避、滞在時間の短縮などにもつながり、これまでよりもさらに気軽に献血に協力できるようになります。ラブラッドアプリを、ぜひご活用ください。

ラブラッドアプリは、こちらからダウンロードできます。

日本赤十字社 ラブラッド

↑ 献血Web会員サービス「ラブラッド」アプリはこちらのアイコンが目印です

App Store からダウンロード　Google Play で手に入れよう

※Apple および Apple ロゴは米国その他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
※ App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
※ Google Play および Google Play ロゴは Google LLC の商標です。

ラブラッド　検　索

わたしも赤十字　今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で活動に参加する支援者がいます。
全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介します。

赤十字ボランティア
奥野令子（おくのれいこ）さん
東京都中野区／49歳／コンサルティング会社経営

車いすでも希望の観光地へ！「ありがとう」の言葉が活動のモチベーションです

2011年の東日本大震災の直後、ボランティア活動を探して見つけたのが「赤十字語学奉仕団」。私はアメリカで大学時代を過ごし、英語やスペイン語を話すことができるので、すぐに申し込んだのです。実は語学奉仕団は入団の時期が１年に１回と決まっていて、参加する前に研修を受ける必要がありますが、東日本大震災では語学支援のニーズが高く、例外的に入団前からお手伝いをすることができました。海外から来たボランティアが被災地での活動中に熱中症になったり、けがをしたりしないように、英語などで注意喚起をするサポートが必要だったのです。それからずっと、青少年赤十字の国際交流や「東京アクセシブル車いす案内」という東京・横浜・鎌倉の観光施設や交通機関のバリアフリー状況の現地調査と情報発信、車いすで来日した方の観光案内をメインに活動を続けています。

この活動で大事にしているのは要支援者の「こうしたい」を実現すること。障害があるから無理だと思っていたことが達成できたときの感動。行きたいと思っていた場所に行けたときの喜び。それを間近で見られるうれしさ。一大決心で来日した車いすの方から「ありがとう」と言われると、その言葉が自分の存在意義のように感じられて、幸せになります。仕事があるからボランティアは難しいという方もいますが、私にとっては、このボランティアの時間が、忙しい仕事では得られない体験ができる癒やしになっています。コロナ禍で自粛していた活動も再開しているので、働き盛りの若い世代にこそ、ぜひボランティア活動に参加してほしいですね。

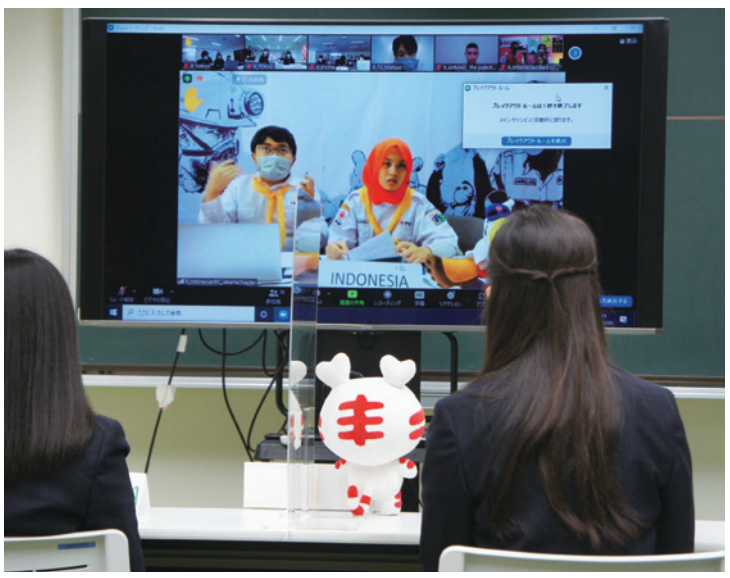
赤十字ボランティアへのご協力について詳しくは ⇒

TOPICS

青少年赤十字創設100周年記念プログラム
全国の高校生が「気候変動」をテーマに国際交流

青少年赤十字（JRC：Junior Red Cross）の実践目標である「国際理解・親善」を目的とした、国際交流事業が11月５・６日、Web会議の形式で開催されました。この事業は周年事業として10月に第一部、11月に第二部の二部制で実施。日本からは30支部220人が、海外からは24カ国の姉妹赤十字・赤新月社238人が参加し、計458人の青少年赤十字メンバーが、気候変動について学びました。

今回のテーマは「気候変動～未来と世界をまもる行動をともに～」。もっとも影響を受けるであろう、未来を担う若い世代が地球規模の課題と向き合いました。日赤がルワンダで取り組む気候変動についての基調講演の後、福島県立平工業高等学校の青少年赤十字メンバーが登壇し、福島県の二酸化炭素（CO_2）削減推進事業「福島議定書事業」において学校部門の最優秀賞を受賞した取り組みを英語と日本語で紹介。CO_2排出量の2%削減を目指し、昼食時に校内放送で節水、節電の呼びかけをしたり教室の見回りを行い、学校全体で生徒たちのSDGsに対する意識向上を図り、11.5%もの削減を達成。「“自分たちには何もできない”と考えるのではなく、皆で協力しながら活動する。諦めなければ、できることは必ずある」と参加者にメッセージを送りました。参加した学生も「自分の学校でも節電呼びかけの放送やごみの分別など、もっと積極的にやれるんだと思いました」と真摯（しんし）に受け止めました。



インドネシア赤十字社の JRC メンバーと気候変動について意見交換

また、Climate Centre（赤十字気候センター）による講演や、赤十字語学奉仕団主催の交流企画のほか、支部主催交流プログラムとして、埼玉県支部はマレーシアと、山口県支部はフィジー共和国とそれぞれ交流。ゲームや質問を通じて異文化への理解を深めました。最後のアクティビティは青少年赤十字創設100周年事業の1つである「つながるダンスプロジェクト」。ダンスを通じて世界中の参加者とオンライン上でつながりました。

参加者たちは「ルワンダでは4世帯に1世帯の子どもが栄養失調という話にショックを受けました」「実際にいろんな国の人の話を聞いてみて、もっと視野を広げたい」「世界の仲間たちとディスカッションができたのがよかった」などと感想を述べました。

冒頭のアイスブレイクでご当地名物どらやきを紹介する東京都の JRC メンバー

東京の天気について海外メンバーにジェスチャーでヒントを出す

献血まるわかり辞典

「なるほど！」と思わずヒザを打つ“献血にまつわる豆知識”を紹介。第９回は、動く採血室と呼ばれる「献血バス」を徹底取材！

vol.9

けんけつ - ばす

【献血バス】

ワクワクするほど創意工夫がいっぱい！気遣い満載の“動く採血室”

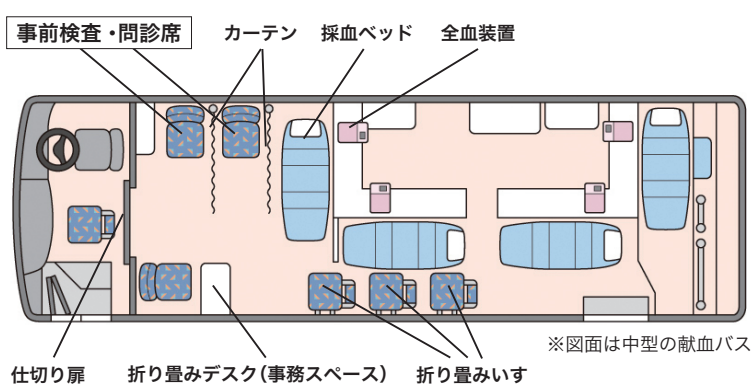
1961年９月に日赤の献血史上初となる運行を開始した移動採血車、通称「献血バス」。 第１号から進化を続け、バスをベースにした中型の他、近年はトラックの車体をベースに作られた大型・特大型もあり、トラックの荷台に採血室がまるごと載っているような構造になっています。

献血バスの車内で注目すべきは、採血ベッド。左右どちらの腕からでも採血できるよう枕の位置を逆にでき、万が一、献血中に気分が悪くなったときは、すぐに頭の位置を心臓より下げられる、５分割可動のリクライニングベッドです。その他にも献血者への配慮を至る所に盛り込み、冷暖房の吹き出し口は献血者に適切に風が当たるように配置しています。

車体には献血者が乗り降りしやすいように車高調整機能の付いたサスペンションや、乗り降りする際に車体が揺れにくくなるよう車高を固定する油圧ジャッキなども装備。また、車外の天幕が約30秒で 2.5m歩道側に広がって、その下の空間を受付・休憩用のスペースとして活用できるようになっています。

なお、献血バスは法的には診療所の扱いになるため、診療スペースとして運転席との間に扉が設けられており、このような設備・機能を有する献血バスは、救急車、消防車、警察車両と同じ「8ナンバー」を取得しています。

現在、献血バスは全国で273台（2022年９月末時点）が活躍中。過去には、壁の一部が油圧で外側にせり出していく“車内拡幅タイプ”というレアな車体もありました。献血バスで献血する際には、車の内外をじっくり見てみてくださいね！



※図面は中型の献血バス

令和4年12月1日（毎月1日発行） 第991号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）
第991号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可） 令和4年12月1日（毎月1日発行）

全国各地
あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は
行われています。

宮城県 インフル流行前に献血を！ テレビ局でアナウンサーも献血

コロナ禍で献血者数が減少した上に、今冬はインフルエンザの流行も懸念されており、血液の安定供給が難しい状況が予想されます。東日本放送は献血を支援しようと献血バスを招致。セキュリティが厳格なテレビ局でありながら一般の方も受け入れての企業献血を実施しました。献血ファンで日頃からSNSで献血を呼び掛けている野口ちひろアナも参加しました。

「針を刺すときにチクッとするけど後は大丈夫」と笑顔の野口アナ

埼玉県 真夜中の高速道路SAで 合同防災訓練に参加

日赤埼玉県支部は、10月12日夜～13日未明にかけて、関越自動車道高坂SA（サービスエリア）で実施された防災拠点合同防災訓練に参加。消防や警察、DMATなど関係機関から170人が集結し、フードコートが災害対策本部に。各団体の災害時の動きを共有し、防災用Wi-Fiや非常用コンセントなど災害時に進出拠点として活用されるSA敷地内の機能を確認しました。

高速道路SAが備えるさまざまな防災設備を関係機関と確認

石川県 奉仕団が実施「ACTION！ 無病息災プロジェクト」

日赤石川県支部では、健康増進を目的とした「ACTION ！無病息災プロジェクト」を推進。かほく市赤十字奉仕団は、遊休農地を活用した野菜作りに挑戦。収穫した野菜をバザーで販売し、売り上げはウクライナ人道危機救援金に。また、小松市赤十字奉仕団では、例年開催している救急法講習に併せて、心のケアに役立つ「ラフター（笑い）ヨガ教室」などを実施しました。

左：健康増進のために野菜づくり、右：笑いヨガで心も健康に

福井県 千葉県 香川県 全国各地で災害総合訓練が実施 日赤救護班が地域の関係機関と連携して活動

10月も全国各地で行われた防災訓練に日赤救護班が参加しました。

10月8日、大雨と地震の複合災害を想定した福井県総合防災訓練に、日赤福井県支部の救護班、同赤十字血液センターなどが参加。8月の大雨災害で活動した救護員もおり、緊迫感のある訓練になりました。

13日は、成田国際空港において航空機事故を想定した消火救難総合訓練が実施され、64機関から約800人が参加。日赤からは成田赤十字病院のDMAT（災害派遣医療チーム）1チーム、医療救護班2個班が参加し、他機関と連携して救出された傷病者の応急手当てなどの訓練を行いました。

18日、香川県では大地震によって石油コンビナートで火災が発生した想定の防災訓練が実施され、香川県支部を含む防災関係機関12団体、109人が参加しました。香川県支部は、県からの要請を受け救護班を派遣、救護所を設置するなど、市の消防本部と相互に連携を深めることができました。

他機関とも情報を共有して治療を行う

トリアージ後に救護所で応急処置を施す

負傷者の応急処置をし、医療機関へ搬送

静岡県 45チームが競う救急法競技大会 感染対策徹底して3年ぶりに開催

10月30日、日赤静岡県支部は3年ぶりとなる第10回赤十字救急法競技大会を開催。〈三角巾の8つ折りと本結びの正確さ〉〈傷の手当ての正確さと早さ〉〈心肺蘇生の正確さ〉を競う3種の競技で救急法の技術を磨き合いました。大会には45チームが参加。スタッフや来賓などを含め約300人が集まり、参加者やボランティア同士が久しぶりに交流できる場となりました。

感染症予防のため、傷の手当ての競技では自分のひざを手当てした

愛知県 5年ぶりの赤十字大会で 外国ルーツの指導員が発表

11月2日、日赤名誉副総裁の寛仁親王妃信子殿下ご臨席の下、愛知県赤十字大会を開催。赤十字活動を支えた個人や団体に有功章などが授与されました。体験発表では赤十字救急法指導員の小川・ニア・クルニアワティさんが活動のきっかけや資格取得の苦労を振り返り、外国にルーツを持つ人たちにも「やさしい日本語」などを活用し、救急法を伝えていきたいと語りました。

外国ルーツの救急法指導員は小川・ニアさんら3人が日赤初

滋賀県 JRC100周年、第1号校で 「子どもサミット」開催

11月1日、日本初の青少年赤十字（JRC）とされる守山市立守山小学校ではJRC研究発表の一環で「子どもサミット」が開催。150人の参加者が見守る中、同校の6年生が名古屋市立西城小学校の6年生とオンラインで会談し、JRCの誓いの言葉を低学年にも理解しやすい表現に変え、共に斉唱しました。また、この日は市長らも招かれ、記念碑の除幕式と記念植樹も実施しました。

障害のある方や闘病中の方の視点にも立って、誓いの言葉を考えた

徳島県 乳児院の子どもたちに贈る プロ演奏家の生コンサート！

10月18日、音楽で心のケアを届ける活動を続けている一般社団法人「100万人のクラッシックライブ」の演奏家が徳島赤十字乳児院を訪問、ミニコンサートを実施しました。子どもたちは、肌で感じるバイオリンとピアノの生演奏の迫力に驚きつつも、最後はトトロの「さんぽ」の演奏に合わせ、各々が好きな楽器を手に、歌って踊って楽しむ姿が見られました。

初めて聴くバイオリンの生音にくぎ付けになる子どもたち

大分県 敵味方の区別なく人々を救う 「人道人間クロスレッド」

10月14日、日赤大分県支部では、赤十字救急法の啓発を目的とした動画「人道人間クロスレッド」2本をYouTubeで公開しました。動画には県支部の職員とボランティアが出演し、主役のヒーローは広報担当職員が熱演。多くの人に楽しみながら救急法に興味を持っていただき、「救急法を学んで苦しむ人々を救ってほしい」という思いが込められています。

動画は第一話「擦り傷・捻挫編」、第二話「熱中症編」が公開中

佐賀県 県知事が“佐野常民”を演じた 「さが維新行列」に歓声

10月23日、「さが維新まつり」に日赤佐賀県支部、血液センター、唐津赤十字病院が参加。メイン行事「さが維新行列」では、日赤の県支部長である山口祥義知事が日赤創設者の佐野常民役に扮し、唐津赤十字病院の院長・看護師らの先頭を歩きました。会場内のブースでは、佐野常民の年表や日赤のパネル展示のほか、ハートラちゃん記念撮影会も行われました。

沿道から声援や拍手が送られた日赤行列（知事は中央）

赤十字はじめて物語

日本赤十字社の９つの事業 その出発点にはそれぞれの「はじまり」のストーリーがありました。 vol. 9 国際活動

日赤の国際活動の先駆け、トルコ軍艦の海難救護

日赤が初めて外国人への医療救護を行ったのは、明治時代、1890年のこと。トルコ軍艦・エルトゥールル号が紀伊半島南方の熊野灘で沈没し、乗組員587人が死亡、付近の村民が命懸けで助けた69人は神戸へ移送されました。日本の皇室を訪問した帰路の事故であったこともあり、明治天皇は侍医を遣わし、日赤の医師と看護婦も共に、生き残ったトルコ水兵の治療にあたりました。文化や言語の壁を越えた懸命な看護のかいもあり、翌年には全員が無事にトルコへ帰還。この救護活動は、トルコが親日国となるきっかけとなりました。

現在、赤十字は192の国や地域に広がるネットワークによって、紛争や災害の被害を受けた人々の命を守り、苦痛を軽減し、感染症などの病気を予防する活動を行っています。日赤もまた、海外への人道支援を事業の柱の１つとし、さまざまな国で活動を展開。毎年12月に実施する「NHK海外たすけあい」募金はこれらの国際活動に活用されています。

「はじめて物語」WEBサイトでさらに詳しく⇒

トルコ水兵、日赤派遣の看護婦らと帰国前の一枚

提供＝串本町（和歌山県）
官民挙げての支援は、日本とトルコの友好のきっかけともなった

「赤十字を応援！」プレゼント パートナー企業紹介 vol.32 浅野撚糸株式会社

浅野撚糸

「夢のある未来を築いていきたい」、東日本大震災の復興支援と献血協力

社員の声で始まった献血活動。社員や訪れたお客様と共に、浅野社長も率先して献血を行っている

驚くほどの柔らかさと抜群の吸水力で人気の “魔法のタオル”「エアーかおる」を販売している浅野撚糸（岐阜県）。海外製の安価な製品に押されて倒産寸前だった時期に、唯一無二の製品作りを目指し、世界初の特殊な撚糸「スーパー ZERO®」を開発。2007年に吸水性、速乾性、耐久性に優れたタオル「エアーかおる」が誕生しました。

福島大学を卒業した浅野雅己社長は、東日本大震災の復興支援をしたいと考えていました。福島県双葉町の伊澤史朗町長との縁もあって、人も企業もいなくなった双葉町に活気を取り戻そうと、同町に工場新設を決意。こうしてエアーかおるシリーズの１つとして誕生したのが、双葉町役場の方々と共同企画した「ダキシメテフタバ」のタオルです。

浅野社長は “ 買い手よし、売り手よし、世間よし ” の「三方よし」の考えを大切にし、その理念は社員にも浸透。社員からの“ 世間よし ” として献血に協力したい」という意見を採用し、定期的に献血バスを招致。コロナ禍の献血不足に貢献できればと献血者には「エアーかおる」を贈呈、日赤の献血推進活動を支えています。

エアーかおる「ダキシメテフタバ」エニータイム
（34cm×120cm）
5名さまに

双葉町との共同開発商品。ふわふわ感と抜群の吸水力。フタバマリーン、フタバサクラ、フタバグリーンの3色展開（写真はフタバマリーン）
※色のセレクトは編集部にお任せください

商品写真はイメージです

【応募方法】 プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS12月号を手にされた場所（例／献血ルーム） ⑥記事へのご意見・ご感想 ⑦希望するプレゼント名 ※いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせに利用します。

郵送／〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字 NEWS12 月号プレゼント係
FAX／03-6679-0785 WEB応募／右の2次元コードからご応募ください。
12月30日（金）必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

こちらから応募できます

令和4年12月1日（毎月1日発行） 第991号（昭和24年9月30日 第三種郵便物認可）

WORLD NEWS

パキスタンの洪水災害

パキスタン・イスラム共和国

洪水にのみ込まれた被災地を見つめる家族

豪雨と洪水で国土の3分の１が“水没”。被災者3300万人のために救援物資を調達

220万棟近い家屋が損壊、今なお800万人が避難生活を余儀なくされているパキスタン。これから冬を迎える同国の救援物資の調達業務に従事する日赤職員から話を聞きました。

IFRC アジア大洋州地域事務所
調達担当
寺尾のぞみ

避難生活を送る800万の人々 支援に生かされた日赤の備蓄テント

2022年６月中旬から２カ月間続いた豪雨とそれによる洪水のため国土の３分の１が水没。パキスタン政府は「国家非常事態」を宣言しました。洪水により、640人の子どもを含む 1700人以上が犠牲となり、今なお800万人もの人々が避難生活を余儀なくされています。

一連の水害による被災者は3300万人に上ります。そして発災後に深刻化したのが感染症です。衛生環境の悪化により、マラリアやデング熱といった水・蚊が媒介する感染症やコレラも流行。そのため、パキスタン赤新月社は巡回診療や保健衛生活動に注力したほか、国際赤十字のサポートのもと、11の浄水場を設置して毎日18万リットル以上の安全な水を供給しています。また11月中旬までに58万人以上の被災者に必要な支援を届けています。

日赤では、マレーシアに備蓄している海外救援物資から、2000枚のブルーシートと923張の家族用テント（計約3100万円相当）を、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）を通じてパキスタン赤新月社に寄贈しました。

マレーシアの首都・クアラルンプールにあるIFRCのアジア大洋州地域事務所に派遣されている日赤和歌山医療センターの寺尾のぞみさんは、救援物資の調達担当としてパキスタン支援に携わっています。「特に家族用テントはこれまでの支援では経験のない量が求められており、備蓄や寄付だけでは賄えないことから現在も調達を急いでいます。とはいえ、製造に必要な天然ガスが不足しているため、予定より調達が遅れているのが現状です。一刻も早く、一人でも多く救っていかなくてはならない状況の中で、日赤からの寄贈は役に立てたと思います」

一刻も早く届けたい！ 飛び立つ救援物資に、感無量

迅速な物資調達が求められる中、寺尾さんが痛感したのがパキスタン政府の輸入品規制の壁だったと言います。

「IFRCの倉庫では緊急支援に備えて、特に需要の高い毛布や蚊帳などは常に備蓄をしています。ところがパキスタンでは、いくつかの国の製品の持ち込みを厳しく規制しており、今回の初動支援で特にニーズの高かった蚊帳の備蓄品をパキスタンに輸入するには２～３カ月かかることが分かりました。私たちのチームは備蓄品の展開を諦め、パキスタンの製造業者と新たに契約をして手配することを決めました」

IFRCが物資の提供業者と契約を締結するまでには、入札や見積もり、品質テストなど、多くの過程を必要とするため、調達物資の総額と品目にもよりますが平均１カ月程かかります。

「物資調達のプロセスには皆さまからお預かりした大切なご寄付を、不正なく適切に扱うために透明性を確保した手順とそのための時間が必要です。しかし被災地で苦しい状況下に置かれている人々のことを思うと、早く対応したいというジレンマを感じました。焦燥感を抱えながら必死に調整や交渉を行っていた中で、物資が飛行機に詰め込まれる場に立ち会ったときには感慨深く、胸がいっぱいでした」

IFRCでは被災規模の大きさと支援の長期化を見込み、支援資金の増額を発表しました。12月に実施される「NHK 海外たすけあい」募金の一部も、この支援に活用される予定です。

エアバス社が救援物資の運搬を無償協力。寺尾さんら IFRC スタッフは物資が飛び立つのを見送った

supported by ICRC

赤十字、世界の「現場」から

赤十字国際委員会（ICRC）、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）、日赤の事業地で切り取られた１枚。知られざる世界の赤十字活動。

「あなたは今、ファギビーヌ湖の真ん中に立っています」
住民の説明に足元を見ると、そこには乾ききった無数の貝殻があった。干ばつが続き、豊かな生態系を有した大きな湖は“消滅”。西アフリカのマリ共和国では、食料危機が広がる中、人々は武力組織の暴力からも逃れるために避難を余儀なくされ、人道危機が拡大した。

総人口の３分の１に当たる750万人超が支援を必要としている、マリ共和国。ICRCは、武力衝突と気候変動による食料危機が同時に発生するマリで食料や生活必需品を配布するなどの支援活動を展開し、激しい暴力から逃れてきた人々の声を世界に向けて発信している。